

資料：秋田大学医学部保健学科紀要11(1)：91-98, 2003

コミュニケーションペーパーと講義に対する 評価表を導入した講義内容の検討

榎山 日出樹* 河谷 正仁** 森 和彦***
若山 佐一****

要 旨

本研究では、コミュニケーションペーパーを用いた講義に対して、学生による講義評価である講義に対する評価表の使用結果をもとに、コミュニケーションペーパーの特性を分析し、講義と講義評価のあり方について検討した。

「明瞭で聞き取りやすい話し方であったか」という評価内容と、「質問しやすい雰囲気であったか」という評価内容が、高値を示し、改善の必要性を指し示していた。

コミュニケーションペーパーは、質問の機会を提供しているが、質問のしやすい雰囲気には効用がなかったことが特性として示された。コミュニケーションペーパーは、教官が学生の個別性にも配慮できる情報を受け取ることが出来る教育ツールであることが示唆された。

I. はじめに

大学教育における教授法は、個々の教官の「自立」した教育観に委ねられており、その自立した教育観をもとに特色のある授業がおこなわれてきた。当大学においては、近年の Faculty development (FD) が周知され積極的にその導入が推奨されている。その中の一つとして、秋田大学医学部医学科では平成14年4月から「講義に対する評価表」¹⁾(資料1)を作成、実施している。これは、平成13年3月27日の医学・歯学教育の在り方に関する調査研究協力会議の報告書のなかで、「国立大学医学部長会議、教育カリキュラムに関する小委員会と教員の教育業績評価方法に関するワーキンググループ」によって作成されたものである。これによれば、教員の行う講義や実習、及び、それらの企画に対する学生評価を、各教育活動の都度、一貫性のある形式で行う必要があるとし、講義に対する学生評価の指針を打ち出している。

一方、理学療法学における教授法においては、他の学問の科目と同様に、科目担当教官が独自のスタイル

で個々の特色を生かした授業を展開している。

筆者は、学生による授業評価のツールとして、3年前より森ら²⁾が推奨するコミュニケーションペーパー(資料2)を利用している。これは、授業終了毎に学生からの質問や意見について、紙面を通して学生がどのように授業を捉えているか把握していくものである。森ら²⁾によれば、小人数の授業では学生にとって授業や教師を厳しく評価しにくいという側面が考えられ、そのことが正確な評価結果の入手を困難にすると述べている。これを踏まえれば、小人数授業での評価は、多項目評価よりも教師と学生との間の橋渡しをするコミュニケーションペーパーが学生による授業評価の一つとして有効であると報告している。また、筆者が、このコミュニケーションペーパーを利用した経験では、一回の授業で学生が授業を評価するということよりも、毎回の質問や意見に答える過程で双方に得られる教育的産物があると推察している。

そこで、本研究ではコミュニケーションペーパーを用いた授業に対して、学生による講義評価を内容とす

* 秋田大学医学部保健学科理学療法学専攻

** 秋田大学医学部医学科生理学第二講座

*** 秋田大学教育文化学部教育心理学講座

**** 弘前大学医学部保健学科理学療法学専攻

Key Words: コミュニケーションペーパー
学生による授業評価
個別性

評価内容	評価項目	非常に優れている	よい	普通	やや劣る	よくない
1 教育に対する熱意は感じられたか		5	4	3	2	1
2 質問や学生による発表の機会を与えたか		5	4	3	2	1
3 質問しやすい雰囲気であったか		5	4	3	2	1
4 明瞭で聞き取りやすい話し方であったか		5	4	3	2	1
5 教材(プリント、スライド、板書など)は適切であったか		5	4	3	2	1
6 学生の学習意欲をを刺激する講義内容であったか		5	4	3	2	1
7 教員が学問分野の専門家として信頼できたか		5	4	3	2	1
8 講義は良く準備がなされていたか		5	4	3	2	1
9 講義の主題、概要、到達目標などの説明があったか		5	4	3	2	1
10. 学生にとって適切な難易度であったか		難しすぎる 5	少し難しい 4	適切 3	少し易しい 2	易しすぎる 1
11. あなた自身の学習態度を自己評価してください		非常に優れている 5	よい 4	普通 3	やや劣る 2	よくない 1
<p>本教員に改善してもらいたい点を含め、本講義の長所短所について、自由に記載してください。</p>						

資料1 講義に対する評価表 (文献1より引用)

コミュニケーションペーパー	
質問、疑問、意見、感想を記入	2003年 月 日 授業科目:
<p>本日の教訓:</p> <p>学籍番号: 氏 名:</p>	

資料2 コミュニケーションペーパーの例 (森らのを一部改変)

表1 講義に対する評価表の分類（評価内容順に記載、文献1より引用）

大分類	項目名	具体的な質問の文章例
教育意欲	教員の熱意	1教育に対する熱意が感じられたか？
教育態度	学生に対する理解	2質問や学生によるプレゼンテーションの機会を与えられたか
	質問しやすさ	3質問しやすい雰囲気であったか
講義技術	話し方	4明瞭で聞き取りやすい話し方であったか
	教育資料	5教材(プリント、スライド、板書)は適切であったか
	モチベーション	6学生の学習意欲を刺激する講義内容であったか
	教員の知識、能力	7教員が学問分野の専門家として信頼できたか
講義計画	講義準備	8講義は良く準備がなされていたか
	講義概要	9講義の主題、概要、到達目標などの説明があったか
講義技術	難易度	10学生にとって適切な難易度であったか？

る講義に対しての評価表の使用結果をもとに、コミュニケーションペーパーの特性を分析した。それにより今後の筆者の講義と講義評価のあり方について検討をおこなった。

II. 方 法

1. 対象

秋田大学医療技術短期大学部理学療法学科に所属する学生17名を対象とし、学生によるコミュニケーションペーパー及び講義に対する評価表への記載を実施した。結果の公表については対象者から同意を得て実施した。

2. コミュニケーションペーパーの実施方法

1) コミュニケーションペーパーの実施科目と実施時期

今回注目するコミュニケーションペーパーは筆者が担当する運動療法Ⅰの授業で用いることとした。この授業は、運動療法の基礎的内容を、講義と実習を併せて行った。この科目は、90分授業が2コマ連続して組まれ通算15回実施した。

実施時期は、2002年4月から9月までの前期に実施した。

2) コミュニケーションペーパーの実施手続き コミュニケーションペーパーは、授業終了約5分

前に配布した。学生はその授業に対する質問や疑問、その他議論したいことなどを記載した。教官は疑問質問に対して次回の授業時のはじめに、疑問や質問を匿名で公表し、それについて回答を公開した。記載に関しては、必ずしも何か書かなければならないということではないことや、意見などの記載が可能であることを口頭で説明した。

3. 講義に対する評価の実施方法

1) 評価の対象科目と実施時期

講義に対する評価を実施した科目は、筆者が担当する専門科目である運動療法Ⅰとした。

講義に対する評価の実施時期は、科目授業の最終授業終了時に行い、形成的評価の1週間前の平成14年9月20日に実施した。

2) 「講義に対する評価表」の評価内容（資料1）

評価内容は、講義に関する11の質問項目で構成されている。11の質問項目の中で、1から10項目は授業そのものに関する質問であった。回答は、「非常に優れている」「よい」「普通」「やや劣る」「よくない」の5段階評価であった。また、11番目の質問項目は、学生自身の自己評価に関する質問項目で構成された。回答は、同様に5段階評価で回答した。11の質問項目以外には、本教員に改善してもらいたい点を含め、本講義の長所短所について自由記載する

表2 講義に対する評価内容の相対度数

評価内容	評価項目					N = 17
	非常に優れている	よい	普通	やや劣る	よくない	
	5	4	3	2	1	
1 教育に対する熱意は感じられたか	47(8)	47(8)	6(1)	0(0)	0(0)	
2 質問や学生による発表の機会を与えたか	82(14)	18(3)	0(0)	0(0)	0(0)	
3 質問しやすい雰囲気であったか	12(2)	47(8)	35(6)	6(1)	0(0)	
4 明瞭で聞き取りやすい話し方であったか	0(0)	18(3)	71(12)	12(2)	0(0)	
5 教材(プリント、スライド、板書など)は適切であったか	29(5)	59(10)	12(2)	0(0)	0(0)	
6 学生の学習意欲を刺激する講義内容であったか	35(6)	41(7)	24(4)	0(0)	0(0)	
7 教員が学問分野の専門家として信頼できたか	29(5)	53(9)	18(3)	0(0)	0(0)	
8 講義は良く準備がなされていたか	41(7)	53(9)	6(1)	0(0)	0(0)	
9 講義の主題、概要、到達目標などの説明があった	29(5)	53(9)	18(3)	0(0)	0(0)	
10. 学生にとって適切な難易度であったか	難しすぎる	少し難しい	適切	少し易しい	易しすぎる	
	0(0)	65(11)	35(6)	0(0)	0(0)	
11. あなた自身の学習態度を自己評価してください	非常に優れている	よい	普通	やや劣る	よくない	
	0(0)	59(10)	35(6)	6(1)	0(0)	

相対度数(%)

表3 本講義の長所・短所についての記載内容

		総件数20件
短所	前置きが長い(1件) 説明が長い(4件) 実習時間が短い(3件)	
10件	時々質問内容と答えがずれている。(1件) 書く時間が欲しい(1件)	
長所	コミュニケーションペーパーを用いて学生の質問に耳を傾けたのは良かった。(1件) 質問がしやすかった。(1件) コミュニケーションペーパーはためになった。(1件) コミュニケーションペーパーは他の人の質問を聞き復習することが出来て良かった。(1件) コミュニケーションペーパーを使用し、質問しやすい環境を作っている。(1件)	
8件	質問に対してしっかり回答している。(1件) 実技の時間を多くとっている。(1件) 臨床での話が多く、興味深く、現実味がありました。(1件)	
その他	質問されるとすぐ見当はずれなことを言ってあきれられるのではないかと不安になる。(1件) 質問される機会が私にとっては、とても苦痛だったが、ある日を境に比較的答えやすい質に変わったので、とても良かったし、リラックスして授業を受けることが出来た。(1件)	
2件		

欄が設けられた。

当大学で用いられている評価内容を筆者が分類し整理したものを表1¹⁾に示した。委員会の指針には、1回の講義において、講義を行った個々の教員を評価するとしている。また、評価を行う時期は、当該講義終了直後に行うとし、学生自身の学習態度の自己点検評価結果を加えることが望ましいとされている。

4. 講義に対する評価表の実施に関する学生へのアンケート調査

1)対象者と実施時期

対象者は、運動療法Ⅰの授業を履修した17名で、

講義に対する評価表の記載後、約3ヶ月後に実施した。アンケート調査を3ヶ月後とした理由は、この時期は、成績表かがすでに終了しているため、アンケート調査に対して、対象者が成績評価を意識せずに回答可能な時期と考え設定した。

2)アンケート調査の内容

調査内容は、「学生による授業評価についてどう思いますか」という質問に対し自由記載した。その回答内容は意見、要望、感想に分類した。

Ⅲ. 結 果

講義に対する評価結果を表2・表3及び図1、学生

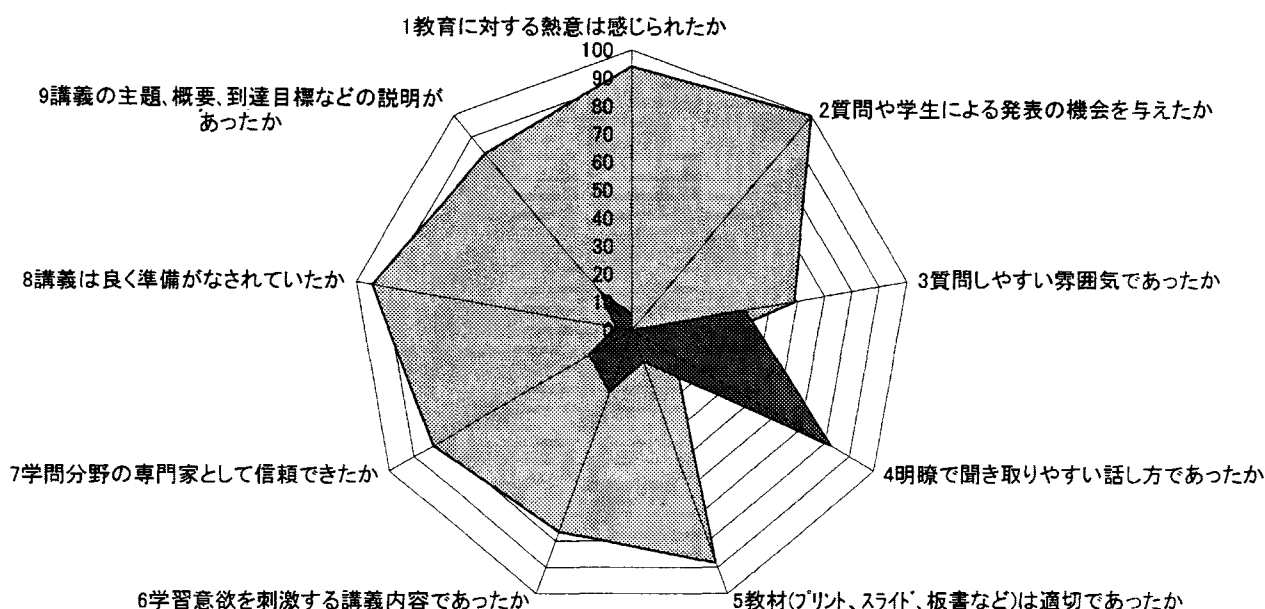


図1 講義に対する評価の相対度数分布(%)

による授業評価についてのアンケート調査の結果を表4に示す。

1. 講義に対する評価表への記載結果(表2・3, 図1)

回答は、17名の回答者全てから回答が得られた。自由記載においては、2名を除いて、全ての者が記載していた。自由記載の長所、短所については、短所としての記載が、10件挙げられていた。また、長所としては8件記載され、その他に分類した訴えが2件であった。

図1は2項目に分けてレーダーチャートにすることにより、改善する内容を理解しやすくしたものであり、「非常に優れている」と「良い」の項目の相対度数を合算し、それ以外の「ふつう」「やや劣る」「よくない」を合算して示したものである。本図に示すように、評価番号4の「明瞭で聞き取りやすい話し方であったか」という評価内容と、3の「質問しやすい雰囲気であったか」という評価内容が高値を示していた。

2. 講義に対する評価内容と自由記載との関連

自由記載の長所に、コミュニケーションペーパーを挙げている者が長所の8件中4件いた。

自由記載の長所において、コミュニケーションペーパーの使用が良かったとして挙げている回答者4名に、共通する回答傾向があった。それは、2番目の評価内容の「質問や学生による発表の機会を与えたか」の評価内容で、コミュニケーションペーパーの使用が良かったとしている学生4名全員が「非常に優れている」と段階付けていたことである。それ以外の13名の回答者では、3名が「良い」としており、残りの全員において、「非常に優れている」と位置付けていた。また、この評価内容においては、他の評価内容に比較して相対度数でも「5」へのランク付けが80%をこえているのに対して、他の評価内容では「5」への位置づけは40%前後であった。

3. 学生による授業評価についてのアンケート調査の結果(表4)

学生による授業評価を行うことについて、感想と意見に分類した。感想のなかで、「良い」としている回答は、10件であった。10件中7件は、「より質の高い授業にしようという思いが伝わってきて良い。」と回答していた。それ以外の感想として、何に結果が反映されるのか、低い評価が教え方に問題があると判断する困難さについて記載されていた。意見としては、今後の学生評価に関する利用システムに対

表4 学生による授業評価についての感想・意見

		総件数17件
感想	良い 10件	・学生側の意見を聞いてもらえる機会として良かった。(1件) ・より質の高い授業にしようという思いが伝わってきて良い。(7件) ・自分の授業態度についても反省する機会にもなっていて良い。(1件) ・なかなか直接言えないこともこういう形であれば言いやすいのでよい。(1件)
	他 14件	・結果について教官からの意見、感想、反論などが余りないため、その評価がどのように良い方向に役立っているかわかりにくい。(1件) ・教官が学生を評価する内容と学生が教官を評価する内容が異なり、人間性などを聞かれるが、学生に対する評価についてもそのような考慮が必要(1件) ・熱意という、淡々と授業する先生だと余り感じ取れないし(あったとしても)難しいと思った。(1件) ・評価が低いからといってイコール先生の教え方に問題があると聞いたものではないと思うので結果の見方は複雑なのか?(1件)
意見	3件	・担当教官のみがそれを見るようなシステムではなく、回収は他の先生(教官)が行い、全員でそれを評価しあうというのがよいと思う。(1件) ・授業の最後だけではなく中間にもやってもらいたいと思います。(1件) ・教員同士の評価も行って欲しい。(1件)

するものと、複数及び教官同士での実施について記載があった。

ことから、講義と実習時間の配分についても検討の必要のあることが示された。

IV. 考 察

1. 講義に対する評価表の結果について

筆者が担当した授業は、講義に対する評価表から、明瞭で聞き取りやすい話し方ではなかったことが理解できた。聞き取りやすい話し方については、筆者自身工夫及び考慮した授業やその対策について検討する必要性が明らかになった。また、評価結果は、質問しやすい雰囲気であったかについても同様に検討の必要性を示した。それ以外の項目では、相対度数分布でほぼ80%程度を占めていた。

筆者の授業では、授業を中断してでも質問をする学生は希であった。このことから、口頭でのコミュニケーションスキルを向上することを目的に、授業中に必ず1回は学生に質問をしてきた。また、口頭ではうまく答えることが出来ない学生でも紙面を通して主体的に質問をする機会を作る目的でコミュニケーションペーパーの導入も試みた。しかし、筆者が質問することやコミュニケーションペーパーの使用は、質問しやすい雰囲気を作り上げることには貢献していないと判断された。

一方、自由記載には、同じ内容の回答が長所及び短所として挙げられていた。この同一内容の感想が長所、短所に記載されていることは、「実習時間の長い、短い」という量的変化は主観的な判断に基づくものであることが理由として考えられた。つまり、自由記載に関しては、個人の主観での曖昧な基準で表現される記載内容は、ある程度の参考にとどまることを示していた。しかし、「実習時間が短い」という件数が4件に対して、「多い」は1件であった

2. 講義に対する評価表からみたコミュニケーションペーパーの効用

評価内容と自由記載との結果から、コミュニケーションペーパーが影響したと考えられたのは、「質問や学生による発表の機会を与えたか」であった。これは、授業終了時にコミュニケーションペーパーに質問や意見を記載するという今回の方法からは当然の結果といえる。また、授業での課題提供されたものをグループごとに発表する機会も用意されていたことが、このような結果に結びついたと考えられた。以上のことから、コミュニケーションペーパーは、質問の機会を提供していることが特性の一要因であると推察された。

また、評価表の自由記載にあった「質問される機会が私にとっては、とても苦痛だったが、ある日を境に比較的答えやすい質問に変わったので、とても良かったし、リラックスして授業を受けることが出来た。」という、その他に分類した内容があった。これは、授業中に行う質問内容を適宜配慮して簡潔な質問内容に変えたことが、本人の個別性に対応できた一例といる。このことから、コミュニケーションペーパーは、教官が個々の学生の特性にも配慮できる情報を受け取ることが出来る教育ツールであることが示唆された。

3. 学生の授業評価についてのアンケート調査からみた講義に対する評価表の利用法

教員の教育業績評価委員会の指針によれば、講義に対する評価は、「当該講義終了直後に行う」とし

ている。この文面だけでは、30回の授業のうち、その中の1回だけ実施すればよいのか、それとも最終最後の授業終了時に行うのか不明瞭である。少なくとも、今回のアンケート結果にもあったように、30回の授業であれば、前半、中間、後半の3回実施するなど、数回にわたって実施することにより、個別特性も早期に情報収集でき、対応策を検討することでより良い教育サービスの提供が可能であると考えられた。

狩野⁹⁾は、学生による評価の基本的な目的は学生が教育をどのように体験しているか理解することであり、教育戦略を立てることによって、個々の教員の教育能力が向上することが得られると述べている。今回の研究では、コミュニケーションペーパーと講義に対する評価表を導入し、記載された長所・短所からコミュニケーションペーパーの効果として考えられることを抽出するまでにとどまった。今後は、コミュニケーションペーパーを授業ごとに実施しながら多様化する学生の個人特性に対応しながら、講義に対する評価を複数回実施して、自らの Teaching 能力を向上するための基礎資料として活用していきたい。

高等教育機関の教官のみならず、人が「自律」して仕事を営むことの重要性は、誰しもが理解を示すと考えられる。学生による講義評価を実施することは、教官に対して「自律」を促す情報を与え、それを活

用することで、講義の教授能力が向上し得る可能性がある。そのためには、本研究で実施しているコミュニケーションペーパーや講義に対する評価表を継続して実施することが重要であると考えられた。

V. まとめ

授業評価として活用してきた「コミュニケーションペーパー」が、講義の中でどのような特性を示すのか、「講義に対する評価表」を用いて検討した。

コミュニケーションペーパーは、小人数授業において学生の質問する機会を提供し、個別性にも配慮できる情報を受け取ることが出来る教育ツールであると考えられた。

今後はコミュニケーションペーパーと講義に対する評価表を用いて Teaching 能力を向上するための基礎資料として活用していきたい。

文 献

- 1) 吉田洋二, 飯島裕幸, 他: 21世紀における医学・歯学教育の改善方策について—学部教育の再構築のために—教員の教育業績評価ガイドライン. 医学・歯学教育の在り方に関する調査協力者会議, 2001, pp6-7
- 2) 森和彦, 佐々木典彰, 他: 教授法改善を目的とした学生による授業評価システムに関する一考察. 秋田大学教養基礎教育研究年報: 15-25, 2000
- 3) 狩野力八郎: 学生による授業評価. 現代医療34-7: 204-213, 2001

Examination of the Lecture Content Innovative the COMMUNICATION PAPER and the Evaluation of Lectures

Hideki MOMIYAMA*, Masahito KAWATANI**, Kazuhiko MORI***,
Saichi WAKAYAMA****

* Course of Physical Therapy, School of Health Sciences, Akita University

** Department of 2nd Physiology, School of Medicine, Faculty of Medicine, Akita University

*** Department of Educational Psychology, Faculty of Education and Human Studies, Akita University

**** Department of Physical Therapy, School of Health Sciences, Hirosaki University

In this study, characteristics of lectures employing communication papers were analyzed on the basis of trials of lecture evaluation forms completed by students, and desirable ways of carrying out lectures and lecture evaluations investigated.

The areas evaluated, "Was the talk easy to follow" and "Was an atmosphere created where it was easy to ask questions?" were both highly rated, indicating that there is necessity for improvement.

It was shown that while the communication papers offered the opportunity for questions, there was no effect in fostering an atmosphere where it was easy to ask questions. The results suggested that communication papers can be used as an education tool whereby teachers can take into account students' individuality.